

山陰経済ウィークリー



原発ゼロの夏 突発リスクに備える中電

電力需給見通しは昨年より余裕

WEEKLY FACE



山本粉炭工業社長
山本 明男氏

ワイド特集

隠岐の島での「体験学習」民泊 高齢化進み受け入れ先が半減

Weekly News

島根経済同友会50周年で座談会
合銀が個人ローンの取り込み強化
荒木建具店積み木が「グッド・トイ」に

さんいん企業物語

大協組(1)

米子市

好評連載中! 輝く女性/Person/きらりビジネスetc.

DATA

会社名/出雲土建㈱
所在地/出雲市知井宮町138-3
従業員/61人
TEL/0853・22・4118
主な業務/土木建築業、リサイクル業、造園業

秘ストーリー

◆32◆



マンションの天井裏に敷き詰めた炭八＝出雲市白枝町



炭八の原料となる建築廃材＝出雲市下古志町、出雲カーボン

「炭八」出雲土建
(出雲市知井宮町)

注目を集めるのは木炭の高い機能性だ。調湿機能により、ぜんそくやアトピーの原因となるカビ、ダニのほか、結露、シロアリの発生を低減。防音や光熱費も抑える効果があるとして、県内ばかりか関東や東北、東海地方など全国の新築やリフォーム市場で使われている。

特に、出雲市内では「炭の家」ブランドのマンションを、04年3月から14年8月まで36棟(596戸)建設した。累計の売り上げは約56億円に上る。「炭の家はありませんか」と市内の不動産会社に問い合わせがあるほどの人気を物語っているのが、98%という高い入居率だ。通常、賃貸マンションは入居率90%で優良といわれるだけに、高さが際立つ。綿密な市場調査に加え、オーナーや施工主に対しては事業計画の管理、経営支援を行うことで信頼を築き、建築物件の増加につなげている。

開発のきっかけは、建設業界の環境変化だった。

「変動の激しい建設業の収入だけをあてにはできない。しっかりとした固定収入が必要だった」。出雲土建社長石飛裕司(61)が、開発当初を振り返る。同社は1990年代後半、公共、民間を合わせた工事の受注は横ばいだったものの、約10年後には建設業全体で受注が激減するとの試算に接し、新

販売する調湿木炭「炭八」だ。除湿や消臭、防音、省エネなどに抜群の力を発揮し、2002年9月の販売開始以来、知る人ぞ知るヒット商品となった。

建設業の不況がきっかけ

炭八はマツヤスギ、ヒノキなど住宅

マンションや一戸建て住宅の床下や天井裏に、びっしりと敷き詰められた木炭入りの袋。その数は1平方メートルあたり6袋。まだ入居前だというのに、室内は新築の建物特有のにおいがしない。正体は、土木建築業の出雲土建㈱(出雲市知井宮町)が開発し、100%子会社の出雲カーボン㈱(同市下古志町)で製造、



炭八を手にする出雲土建の石飛裕司社長＝出雲市下古志町



出雲土建の本社＝出雲市知井宮町

たな収益の柱を模索せざるを得なかった。

販売最初の3、4年は苦戦

1998～99年ごろ、賃貸マンションを2棟建設したが、空室の発生などで路線を変更。解体作業で出る木材やコンクリートなどの分別、再資源化が義務づけられる建設リサイクル法の施行を控え、関心が高まっていた木材リサイクルの事業を取り入れようと、2000年夏から全国の炭焼き現場や、炭を床下に敷く住宅建設の現場を回った。

実際に施工した工務店やメーカーなどからは「炭を入れると環境が良くなった」との話は入ってくるものの、そ

ぜんそくやアトピーを軽減 島大との共同研究が道開く

れを裏付ける具体的なデータは得られなかった。「科学的裏付けを取るのには大塚が研究機関しかない」。製品化を前提に、石飛は01年から島根大学との共同研究に取り組み、調湿機能と床下が乾く仕組みを全国で初めて実証した。

ただ、製品化を目指す途中の段階では問題も発生した。モニター調査に応じた客から、床が炭の粉で真っ黒になった写真が送られてきたのだ。袋の細かい編み目から、施工時に粉が出てしまったためだ。そこで機能を落とさず、

粉が漏れ出さない特殊な不織布を県外の試験研究機関と開発。対策に万全を期し、製品を市場に投入した。

だが、「販売して3～4年は本当に厳しかった」と打ち明ける石飛。「炭八は、口コミでしか良さは伝わらない。除湿効果は目に見えないため、お客さんに理解してもらうのは大変だった」と、つらい時代を振り返る。

いつも周囲への感謝忘れず

炭八への信頼を広げていく大きな要因となったのは、島根大との共同研究によるデータの積み重ね

だった。天井裏に敷設すると、ホルムアルデヒドやトルエンなどの化学物質の濃度を低減し、アトピー性皮膚炎や気管支ぜんそくの症状を改善する可能性を突き止め、防音、節電効果も実証できた。06年

と10年の2回に分け、特許を取得。気管支ぜんそくやアトピーの専門医が集まる学会などで発表する機会が増えたと、炭八の名は広く知られるようになった。石飛は「島根大との連携があるからこそ、事業が拡大できている」と感謝の言葉を口にしている。

炭八を取り入れたモデルルームには共同研究で得られた成果やデータを使って、健康住宅の必要性を訴えている。「炭八のおかげで病気が良くなった」と、今では多くの人が訪れるようになった。石飛は「家が健康になれば、体も健康になる」と話し、炭八の効果の大きさをあらためて実感する。

最近では、室内に置くタイプの製品がインターネットでよく売れているほか、押し入れやタンス、げた箱、食器棚、配水管付近のシンク、自動車の室内などに置ける小型の商品も人気を集める。炭八の効果を広く知ってもらうための戦略も忘れない。

「地域に必要とされ、信頼される会社になりたい。人に喜ばれる仕事を続けていきたい」。多くの人や従業員に支えられ、数々の困難を乗り越えていった石飛は、感謝の言葉でこう締めくくった。(文中敬称略)